

アドバイザー派遣事業実施レポート

研究団体	協同学習研究会（境二中・美保中）	
研修テーマ	協同学習の理念をふまえた学び続ける集団づくりと授業力の向上	
実施期日	平成30年5月23日（水曜日）	
実施場所	境港市立第二中学校	
アドバイザー	勤務先	岡山大学教師教育開発センター
	職・氏名	教授 高旗 浩志
<p>1. 研修の経緯</p> <p>本校では確かな学力の定着を目指し、平成27年度から高旗浩志教授の指導のもと、協同学習をベースとした授業づくりを行ってきた。現在も新学習指導要領の実施に向けて、これまで以上に「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善を図るための取り組みを進めているところである。これまでは、秋に授業公開と授業研究会を行ってきたが、今年度は職員集団が協同学習の理念をまなび直し、同じ目標を持ちながら日々の実践が行えるように、5月に授業公開と研修会を実施した。</p> <p>2. 授業公開について</p> <p>公開授業では、以下の3点を意識して授業づくりを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ゴールイメージを明確にし、そこに向かうための「めあて」を設定する。 ②個人思考→集団思考のステップを踏むことで思考の深まりを目指す。 ③「めあて」に対する振り返りによって、生徒自身がめあてが達成できたかが自覚できる。 <p>事前に、高旗教授に指導案を見ていただき、助言を受けて指導案の修正を行った。このとき、以下のような提案を頂いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動場面で生徒が用いる教材は、子どもたちが主体的に読み解かなければならないような、いくぶん不親切なもの（教科書）が良い。 ○ヒントとして、「分類のための視点」を与えることは有効だが、同時に生徒たちが「どのような視点で分類しようとしているか？」を自由に発想させることも必要。 ○ワークシートが親切すぎる気がする。白紙のノートに生徒が自分の考えでまとめさせ、「それをどのように図や表にしていくと、他人に説明しやすいものになるか？」という課題こみで集団思考させても良いのでは。 <p>これらの助言をもとに指導案を再検討し、公開授業を行った。学級が、協同学習の理念のもと「学習する集団」になっていくように、支持的風土を作り出すための教師のはたらきかけや評価の言葉かけについても意識しながら授業を行った。</p> <p>3. 授業実施後の振り返り</p> <p>授業参観では高旗教授が作成された『「学習する集団づくり」のための授業プラン』にある9つのポイントに注目して観察し、授業後に意見交換を行った。授業を通して、以下のような意見が出た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業者のタイムマネジメントが不十分で、振り返りの時間が適切ではなかった。 ○「めあて」に「説明できる」とあるのに、説明する活動がなかった。最後に、生徒が自分のノートに「被子植物」「裸子植物」「種子植物」を自分の言葉で説明できるように書かせる活動を入れることが適切。 ○生徒が学習する主体になるためのしかけや考え方を深めることができた。 <p>また、講義を受けることで、「答えをみつける学習」から「自分の思いをつくる学習」へ転換していくために、教材研究と学習者理解に力を注ぐことや中途半端でも思いを表現させる授業にしていこうなどの考え方を新たに得ることができた。そして、今後はこの研修をもとに、互いに授業公開を行いながら研修をすすめていくことを確認することができた。</p>		